



図書館 だより

図書館 ☎69・3706



今回は、株式会社ニデック代表取締役社長小澤素生(もとき)さんにお話を伺いました。

■図書館にまつわるエピソードはありますか？

最初に行ったのは、小学1年生のころだったと思います。両親が、できたばかりの図書館に連れて行ってくれ、その面白さを知りました。中学生くらいまで毎週のように通い、本を返す時には次の本を借りていました。おそらく、児童室にある本の半分近くは読んだのではないのでしょうか。特にSFものが好きでしたね。高校時代には、通学時に電車の中で、安部公房の作品もよく読みました。

■今はどんな本を読まれますか？

出張時の飛行機の中などでリラックスする時は、アクション小説や探偵・冒険小説などを读みます。作家で言えば、トム・克蘭シーやクライブ・カッスラー、ジョン・グリシャムなど、海外の作品が多いですね。日本人とは感覚



『アソシエイト』
ジョン・グリシャム／著
新潮社／出版



『国際テロ』
トム・克蘭シー／著
新潮社／出版

の異なるユーモアやジョークなどが随所に描かれているので、海外でのコミュニケーションの勉強になります。普段はビジネス書をよく読みますが、小説からも仕事のヒントを得ています。楽しみながら意外な発見ができることが、読書の醍醐味ですね。

図書館ができたころの貴重なお話も伺うことができました。
ありがとうございました。

2010
国民読書年

「使えるネタ」

■ネタ探し

いつも海や川へ行つて遊んでばかり、もとい、調査や研究ばかりしているの、たまには文化的な生活もせねばならないと思、「宝塚の歌劇」と名古屋で開催されていた「劇団四季のオペラ座の怪人」を立て続けに観てきました。

本日はどこか他の水族館にでも

行つて「使えるネタ」を探してこ

うかと思つたのですが、案外水

族館以外の施設には、この「使え

■ネタの蔓延

水族館職員の多くは他の水族館へ頻繁に向いて、自分の水族館でもできることはないかと「ネタ探し」をします。

しかし、どこの職員も同じことをしているの、次第にどの水族館も使い回しの同じネタが蔓延し、結局水族館はどこでも同じ内容になってしまうことがあります。特にアシカショーなどは、どこも同じ種目をやっていることに

るネタ」がゴロゴロしていることが判明しました。



水族館



学芸員 小林龍二

竹島水族館
☎68・2059

■宝塚水槽？

宝塚は、クレイで圧巻といった感じで、サンゴの水槽は宝塚のようにできたらと思つたり、そのための演出や照明の効果、主役を引き立てる脇役の存在なども勉強になりました。一匹の色の綺麗なトップスターの魚を大量のサンゴの中に泳がせて、その周りに小さな引き立て役の魚をたくさん泳がせる。その中にさらにチョコチョコ歩くエビがいたりして、これをキラキラする強いライトで照らせば「宝塚水槽」のでき上がりです。

なりがちで、みんなして「この種目はウチの水族館が発祥の地で、ウチが考えたものだ」と言いあつており、出所が不明になっています。

一方、劇団四季のオペラ座の怪人はテレビのコマーシャルどおりとにかく「スゴイ」。こちらは舞台全体の使い方や興行きの取り方、わざと暗い照明やスポットライト、何よりもグググッと引き込まれる圧倒的な世界観が素敵で、我が水槽もこういった手法を使えるようにして宝塚水槽に対して「グググッと引き込まれるオペラ座水槽」が作れたら、「スゴイ」水槽になるだろうと思ひました。

しかし、そんなことを思っているうちに観劇に夢中になり、ネタ探しをしている余裕がまったくなくなつてしまひ、終わつてから「しまった、もう一回ははじめから観せてほしい！」という気持ちになりました。